
衆愚政治

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

衆愚政治

【Nコード】

N5394F

【作者名】

柘鏡

【あらすじ】

コンピュータが政治を運営する近未来。日に二回法律などが修正される。それを日々チェックしていた私だったが、ある日、逮捕されてしまう。

目覚ましは鳴ったので、私は覚醒した。

時刻を確認すると、七時だ。

私はいつも、七時に起きるのだ。

布団から出て、最初にすることは決まっている。デスクの端末のスイッチを入れることだ。

これは妻がくるまえにしておくはならない。

いつ、夫婦間に関する法律が改定されているか、解らないからだ。立ち上がったディスプレイを見る。政府のサーバーへアクセスして、夫婦間に関する法律をチェックする。

開かれたページには、難解な法律用語で一杯の悪文が乱舞している。一昔前の人間なら、辟易して読むのをやめるだろうが、そんなことはできない。

それに慣れの問題である。最近では、法文の読みすぎで、人のドジを未必の故意だね、と言ってしまっくらいなのだ。なあと、軽いほんの一万字程度だ。

読み終える。

とりたてて改正された様子はない。安心だ。これで、妻におはようが言える。

着替えてダイニングへ行くと、妻が朝食の用意をしていた。

私は言った。

「ちゃんと、食品管理法と家庭に於ける認可食材一覧を見たかい？」
「いいえ」

平然といいやがる。全く、ふてえ妻だ。専業主婦ってのは、自宅に籠ってればいいのだから、いい御身分だ。

「いつ、逮捕されてもしらんからな」

「それより早く食べなさいよ」

急かすものだから、私は五分で朝食を掻きこむ羽目になった。

しかし、ここで重大なことに気づく。

妻が食品管理法と、家庭に於ける認可食材一覧を参照していないということは、だ、私が誤って認可取り消しを食らった品を食べた可能性がある。

私は身震いをした。なんと、恐ろしいことだろうか。

私は自室に直ちに引き返し、くだんの文献を参照した。

改定はなかった。

時計を見ると八時になっている。

そろそろ家を出ないと会社に遅れてしまう。

玄関へ向かう。靴を履く前にすることがある。今日が祝日になっていないか、調べなくてはいけない。他にも、すっかり殺人が合法になっていたりしたら、おちおち外へなどでれるものか。

私は再び自室に戻った。

これは大仕事だ。なぜなら、刑法民法から条例、あらゆる法文などを参照しなくてはならない。

六法の厚さがいかほどのものか、弁護士ではないが誰だっっている。

私はディスプレイに首っ引きになった。

一体、何時間読み続けていただろう。ふと、窓へ目を遣ると、茜色の空が見える。

コンコン。

部屋をノックする音。妻だ。

「待て」私は言った。

自動コンピュータが管理する政府により、日々の改定は朝の六時、夕方の六時の二回ある。今は、当に六時を回っている。

夫婦間に関する法律を参照しなくては、妻をこの部屋にいれるわけにはいかない。

「あなた。入るけど」

「待て、待ってくれ」

そう。私はまだ、夫婦間に関する法律以前に朝から読み始めてい

る法文などを読み終えていないのだ。

「あなた」

「待ってくれ」

「警官が着たわ」

「なぜ？」

妻は何を言っているのだろうか。私はまだ、法を犯してはいないはずだ。

確かに全文は読み終わっていない。一体、どこが改定されたのか？私は焦ってマウスホイールを回した。しかし、目が追いつかない。

「入るぞ」

問答無用で警官が私の部屋に押し入った。

そして、こう言った。

「無断欠勤は三十万円以下の罰金だ」

なんとということだ。ただでさえ火の車の我が家の家計簿が、盛大に真っ赤になってしまふ。

「それは勘弁してもらえませんか？」

「いいだろう」

意外とあっさりと警官は引き下がる。しかし、次の一言で私は地獄へ落とされた。

「おまえを不正アクセスで逮捕する」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5394f/>

衆愚政治

2010年10月28日07時31分発行